

ご教示願います！ SDGsの取り組み方

Vol.13

SDGsに取り組んで、
共感してもらおう事が大事

2023年現在、新型コロナウイルス感染症拡大に相まったIoTや5Gの普及加速、LED照明に代表される省エネについての提案営業、脱炭素社会の実現（カーボンニュートラル）、太陽光発電、蓄電池などエネルギー分野の発展、建築業界における働き方改革など、私達、電材業界が取り組まなければならない社会的・環境的貢献課題は、まさにSDGsの課題そのものです。

しかしながら、「SDGsに取り組むみたいが、どのようにして進めていけばよいか分からない」という声を多く頂いた事から、すでにSDGsに取り組まれている会社様へ緊急取材をお願いし、SDGsとは何なのか、取り組み事のメリットなどをお伺いし、組合員会社様のSDGs取り組み会社増へと繋げる記事を連載致します。

第13回目の今回は、長野単組所属の株式会社デンセン様を訪問し、若林順平代表取締役社長と高野健常務取締役にお話を伺いました。



若林社長（左）、高野常務

SDGsの取り組みは、 経営者層の意識が重要

事務局 SDGsに取り組まれたきっかけをご教示頂けますか？

高野常務 2019年に若林社長から、「これからは、ステークホルダー（利害関係者）との取引や採用活動を行う上で、SDGsに対する取り組みが不可欠になる」という話がありました。そこで、SDGsについて調査した所、長野県にSDGs推進企業登録制度がある事を知り、登録する事を目指した時点から、SDGsを意識して活動するようになりました。

若林社長 SDGsは経営として絶対に必要な観点です。採用面接をしても、学生達は企業の社会性、社会的

意義についてとても関心が高いと感じます。給与や年間休日も重要ですが、自分の仕事が社会的に貢献しているかという尺度は重要な観点だと感じました。

また、ビジネスとしても、「売らんかな主義ではない観点」が、これからは間違いなく企業を評価する上で重要です。勿論、ただ「SDGsに取り組んでいます」と公表するだけでは裏付けがありません。会社の事業活動の中で、SDGsに絡む取り組みは何かを探し出すために、長野県のSDGs推進登録をする事が有効ではないかと思ひ、登録に至ったという経緯です。

SDGsの取り組みに限らず、錦の御旗を上げるのは簡単ですが、継続してメンテナンスしていく事は物凄く覚悟が必要です。そうしないとどんな良い

支援の基準は、 今後も継続出来るかどうか

事務局 デンセン様のSDGsは、文化に対する支援が多いと感じています。1つずつご教示頂けますか？

若林社長 上田市の信州国際音楽村は、1988年の設立当時から若林会長が理事長に就任して、支援を行っています。

街づくりの一環で、農林水産省の補助事業として、県産材のカラマツを活用した屋外型の大きなホールを地域に作り、人々の文化交流や流入人口と定住人口の増加を図るプロジェクトがありました。上田市は全国でも有数の少雨乾燥地帯のため、音楽楽器製造にも適しています。行く末は音楽楽器を作る職人達も定住し、地場産業と言えるくらいにまで発展できたらという理想のもと建築されました。

弊社には、昔から企業の収益は社会のためにも使うべきという理念があります。勿論、事業会社は良い時も悪い時もあり、中には、今年の決算が悪いからと、支援を断る企業もあるかと思いま

すが、どんな時でも支援が必要なのが、文化事業だと思っています。

そこで、弊社の持株会社デンセンホールディングスを設立し、事業会社の収益からの配当で文化事業を支援していく仕組みとしました。

支援は社会性はもちろんのこと、継続して行える事が重要で、継続出来ない支援は最初から行わないという基準で取り組んでいます。様々な支援のお声掛けは頂きますが、重視しているのは、「社会性」と「継続性」です。その代わり、社会の公器として、毎年必ず利益を上げるという命題を果たす役目があります。事業会社と資産管理会社が両輪となって社会還元を果たしているわけです。

事務局 プロスポーツチームへの支援も多く取り組まれていると伺いました。

若林社長 スポーツに関しては、サッカー、バスケットボールチームへの支援等を行っています。会社の仕事は結果だけを捉えるとギスギスしてしましますが、スポーツには結果に関わらず、努力して全力で挑むという軸があります。スポーツ選手の頑張りや感動を皆で共有する

事が仕事にも良い影響を与えると感じています。利益を上げてチームを支えている事が世間の皆様の喜びに繋がっている事は少なからず社員も感じてくれていると思います。

福利厚生として、チケットがプールされておき、社員自ら行きたい試合を申し、観戦しています。沢山見に行く社員がいてチケットが足りない時は、会社が購入しています。

スポーツへの支援は社員同士のコミュニケーションツールの1つとしても考えられていますので、スポーツ観戦だけでなく、スポンサー企業対抗のフットサル大会に

も社員が出場しています。先日も各拠点を越えて集まり、凄く盛り上がりました。

また、地域スポーツの支援に取り組んでいる会社というイメージを世間に認知させたいという狙いがあります。弊社はラジオCMは少し行っていますが、テレビCMは一切流していません。テレビCMは弊社にとってはコスパが悪く、自分で作るCMは、作作的で人間的なイメージを感じていました。逆に、スポーツに支援している企業は、爽やかで良いイメージを持たれやすい印象があります。

ですから、テレビCMの代わりにス



デンセン様元社員で、プロ選手にまで成長した、有永 一生選手
(現 関東サッカーリーグ VONDS市原FC所属)

ポーツに集中投資して、スポーツに取り組んでいる活発な会社というイメージ戦略を行っています。

また、過去には社員からJリーガーになった選手もいます。アスリート雇用として選手を支える環境も整えており、昼は配達して、夜に練習という生活で、多い時は5人の選手を雇用した事もあります。選手達のキャリアを豊かにするために肩を貸した形です。

ずっと働いて欲しくなる様なスポーツ選手の人柄を知って応援できる事は、地域のスポーツチームにとっても弊社にとつても良い事だと思えます。

事務局 人材不足と言われる業界ですので、アスリート雇用という方法論の話は大変有難いです。また、しなの鉄道の出資というのはどういう取り組みですか？

若林社長 しなの鉄道は地域のインフラですが、地域の少子高齢化進み、流入人口が少なく、学生は減っているという状況で、定期顧客減少で苦勞しています。しなの鉄道が無くなったり、便数が減ったりすると一番困るのは私達地域の住民です。そこで、ESG投資という

金融商品を通じて、しなの鉄道の経営をサポートしています。

我々電気を扱う会社が、より省電力かつエネルギー効率が良い車両を購入できるようなサポートすることに対しては社会的意義を感じますし、SDGsの取り組みに繋がっています。

ESG投資は金融商品であり、リターンがあります。リターンがあるから、やり続けられるという側面もありました。

支援は、キャッシュフローがその分だけ悪くなりますが、そのキャッシュを業務の中でどの様にカバーするかをセット



しなの鉄道

SDGsの取り組みを公表する事で採用のミスマッチを防ぐ

事務局 その他のSDGsの取り組みについてご教示頂けますか？

高野常務 健康経営や長野県の職場いきいきアドバンスカンパニーの認証、認定も受けています。社員の働きやすい環境を整備し、この会社で働いていて本当に良かったと思っただけという事が目的です。会社に貢献したいという社員の自発的な意欲を湧き立たせ、生産性や定着率の向上に繋げる事を目標に積極的に取り組んでいます。

さらに、来年度から行う取り組みとして、有休を使いきって欠勤をしなければならなくなった状況の時に、過去に失効した年休を積み立てて使える会社独自の制度を設ける事にしました。法律上、有休は2年間で失効しますが、年間10日間を限度に積み立てができ、最大30日間分まで積み立てられる制度です。この休暇は社員自身の傷病休暇や家族の介護等のために利用する事ができる制度です。

事務局 出来れば使われないに越した事



信州国際音楽村

で考えます。社会貢献はその範囲内で行う事が大事です。一時的に若干、出資分のキャッシュフローが悪化する事はありますが、それをちゃんと回していけば十分やれます。

そういう取り組みをされない会社様は、きつと、キャッシュフローに余裕がないからだと思います。私はキャッシュフローに余裕を持たせる事をとても重視しています。利益が出ていてもキャッシュが良くなかったら困ります。キャッシュが良くなるなら意味が無いと思います。そのくらいキャッシュフロー経営で会社を運営しています。

はないですが、こういう仕組みがある事で社員様の安心や有意義な有休取得に繋がると思いました。

若林社長 社員の皆が常に健康である事は、お客様にとつても、私達経営層にとつても重要な事です。重要な事にしっかりとコストと時間をかける事は大事な観点です。

効率を重視しながら、こういう事に重きを置かず、離職率が高まってしまい、逆に効率が悪くなっているという現象が起きている会社もあるのではないのでしょうか。

弊社の産休・育休の復帰率は100%です。「戻ってくるのが当たり前」と職場に愛着持っている社員の姿を社長が確認出来る事は、凄く幸せな事だと感じています。

事務局 最後に、SDGsの取り組みをHPに公表されている意図をご教示頂きたいです。

高野常務 会社にずっと長く居続けて頂ける方を採用出来るようにするためです。SDGsの取り組みを利用して、弊社のありのままの姿を常に発信する事で、来てくれた方々としつかりとマッチ

ング出来るのではないかという仮説を立てています。

弊社がどういう会社なのかという発信が無ければ、採用のミスマッチは起きってしまうと思っています。

事務局 なるほど、SDGsの取り組みを公表する事は採用のミスマッチを防ぐ事に繋がるのですね。

若林社長 よく、体育会系な会社と言われますが、古き良きもの、大切な事はちゃんと守っていきたいと感じています。カッコイイだけでは共感してもらえませんが、ステークホルダーの皆様からは、地

道に取り組んでいる事を見てもらった上で評価頂いているのだと思います。世の中のためにやる事に頑張るという軸が無ければ、共感を得られず、共感して頂けないという事は、儲からないという事に繋がると思います。だからSDGsに取り組んで、共感してもらう事が大事だと思っています。

その他、デンセン様のSDGsの取り組みは、<https://www.densen.co.jp/sdgs/> からご確認ください。

(株)デンセン様から伺った SDGsに取り組むポイント

- 1、SDGsの取り組み基準は今後も継続出来るかどうかで判断する事。継続出来ないと逆に信頼を疑われてしまう。
- 2、SDGsを利用して、会社の特徴をHPで公表・発信する事により、採用のミスマッチを防ぐ事が出来る。



SDGsに取り組む、取材許可を頂ける会社様がございます。たら、全社合わせて頂きます。全日電材連・事務局・伊達までご連絡下さい。

(03-3541-7192)